

RI ビームファクトリー整備計画の中間評価の実施及び

その結果について

(1) 国際諮問委員会（第2回）

1. 評価の体制・方法・内容

- 評価期間：1999年5月6日から8日までの3日間
- 評価委員会の名称：「RI ビームファクトリー国際諮問委員会」
- 委員会構成メンバー：別紙のとおり
- 評価方法：別添の Agenda に従い、以下の手順により行われた。
 - ・ 理研側の説明
 - ・ 質疑応答
 - ・ 委員のみによる議論
 - ・ 報告内容の取りまとめ
 - ・ 全体議論
- 報告書：委員会閉会后、委員により最終的に取りまとめられ、理研に送付された。

2. 評価結果

- 評価の結果は、前回 1994 年に行われた IAC の提言に沿って進められている RI ビームファクトリー発生系施設の整備の進捗を高く評価するとともに、計画中の実験系施設に高い意義を認め、直ちに整備に着手することを勧告するものであった。また、RI ビームファクトリーは世界的にもユニークな施設であり、これまで現有の理研リングサイクロトロンで進めてきた国際的利用をさらに推進し世界からの集中的な利用を実現するべきである、との提言を受けた。
- 評価報告書全文：別添のとおり

3. 評価結果を踏まえて講じた措置等

- 理化学研究所においては、中間評価の結果を踏まえて、所管官庁である科学技術庁に対して、RI ビーム発生系施設を継続して整備を進めるための費用並びに実験系施設の整備費を平成 12 年度概算要求に盛り込んだ。